

THEリアルタイム

発行者 サポートセンター連 広報担当 横浜市旭区柏町59-2 Tel 045-360-9778 Fax 045-360-7004

社会福祉法人 訪問の家 ホームページ <http://www.houmon-no-ie.or.jp/>

サポートセンター連の活動を基にした地域生活支援情報誌！

リアルショット！

旭区卒後進路連絡会 支援をつなぐ「個別支援会議デモプレイ」



サービス管理責任者
をガチでやりました

学校進路担当役を
熱演しました。

“司会担当” わたくし
ケースワーカー役の
ケースワーカーです

担任役…はっきりに
言って自信あり！

母親役…グループ
ホーム辞めてせ目標
目指そうかしら

協議会一座のデビューでっせー！
座長の添田です

旭区卒後進路連絡会では、関係者（学校・事業所・区役所等々）の皆さんに個別支援会議のイメージを具体的に持ってもらうことを目的に「デモプレイ」を行いました。
＜詳しくはP5＞

- P1 表紙リアルショット「卒後進路連絡会」
- P2～3 十人十色～みんな違うから面白い～「白井僚さんの巻」
- P4 特集 「連・成人を祝う会 能勢レポート」
- P5 協議会メモ 「卒後進路連絡会、個別支援会議デモプレイの開催」
- P6 地域交流の輪／わたしのリアレポ／その他ご案内／編集後記

十人十色～みんな違うから面白い～

白井僚さん（以下、僚さん）は、1990年4月6日生まれの甘い物が大好きな20歳。成人式を迎えたばかりのフレッシュな青年です。“僚（つかさ）”という名前は、友だちがたくさんできるようにという思いと、一文字が良いという強い思いでご両親がつけたそうです。学生時代は生徒会長、連ではスイーツリーダーを務めてきた僚さんの、今まで生きてきた濃い歴史をお母さんから聞かせていただきました。

僚さんは、生まれた時に内反足があり、生後まもなく太ももまでのギブスをはめる治療を行いました。點頭てんかんであると診断された4ヶ月頃には6週間の入院治療と、生まれてすぐにかかなりのハードルを越えてきたそうです。両親にとっては、てんかんよりも歩けないことの方が重大であり、当時はてんかんを重大な病気とは捉えてはいなかったそうです。それでも両親は、ただただ一生懸命僚さんを育てようと思っていたそうです。



睡眠リズムが乱れ、昼夜逆転の生活が日常であった僚さん。療育センターでも、他の子どもたちが活動している時に眠ってしまい、部屋の端でお母さんと過ごすこともしばしば。しかし、ここ療育センターで『プール』との運命的な出会いを果たすことになります。療育センターから「水着を用意してください」と言われたお母さんは、僚さんのために手作りの水着を帽子とセットで作成！お母さんの力作水着で入ったプールの魅力にどっぷりはまり、今では僚さんの大切な趣味の一つとなっています。また通園卒園後、かなり重篤な肺炎になり、挿管をするまでの状態になりました…。このときは、ご両親でお葬式のことも考えたそうです。生死の境をさまよいながらも生命力を発揮し、3週間弱で退院。「大きな病気を乗り越えたこの頃から、本当に僚さんがかわいいと思えるようになった」とお母さんは話してくれました。



そして社会人。実は実習の日も眠っていた僚さんでしたが・・・今では眠くても作業の時間はしっかり起きて、気合い十分！週に4日連に通い、仕事に励んでいます。お母さんが卒業後の進路先を決める際、僚さんが楽しく過ごせればよいと思っており、生産性のあるものを行うことは難しいと思っていたそうです。しかし今では、ラミネートがめくれるとにっこり笑ったり、しっかりと両腕に力を入れてクッキーの生地をこねたりという僚さんの様子に、本人も生き甲斐に感じているのではないかと話してくれました。



工房 2 オリジナルの紙すきのはがき



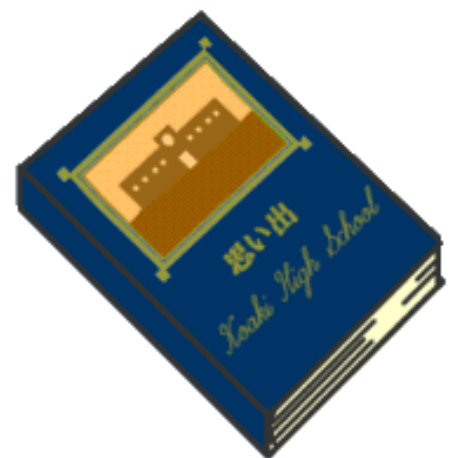
めくりますラミネート！

今後についても、僚さんは箱入り息子なので、家を出ることは想像できない…と、語るお母さん。そんな僚さんにとって、連は…楽しい場所！仕事をし、学校とは違う大人としての関わりが、生活の張りとなっているのではないかとのことでした。連での一日を終え、帰宅する車中、「今日はどうだった？」と助手席の僚さんに話しかけるお母さんをよそに、ムツとした表情を浮かべているそうです。その心は…「(母いわく) 疲れているんだから話しかけないで！」。一日の仕事を終え、誰とも話したくない…まさに年頃の青年のころなのかも

しれません。今回お母さんにお話を聞かせていただき、苦しかったであろうことも笑顔で話すお母さんでしたが、今に至るまでの苦労は想像を超えるものがあったと思います。それでも、見せていただいた小さい頃のアルバムには、笑顔の僚さんがたくさん写っていました。

20年間家族と僚さんが培ってきたものを基盤に、これからもサポートしていきたいと思います。僚さんは少しずつではありますが、僚さんのペースで大人の階段を昇っている真っ最中です。通所1年目より、2年目、確実に変化を遂げている僚さんの今後が楽しみです。

これからも毎日楽しく仕事をしていきましょう！ (永井)



【内反足】…生まれつき足首の部分が内反・内転・尖足になっている病気です。原因は分かっていませんが、足を構成する骨の形態ならびに骨どうしの配列に異常のある疾患です。

特集

連 成人を祝う会 能勢レポート



20歳というと、大人への一歩という言葉をよく聞きますが、みなさんはどんなイメージでしょうか。〇十年前だな…と思う人、お酒が飲める年だなと思う人、人それぞれあると思います。

2011年1月13日(木)連での成人を祝う会が催され、安田さん、三島さん、小倉さん、小越さん、白井さんの5人の方が成人を迎えられました。学校時代の先生による祝辞、恒例となったシャンパンタワー、5人それぞれの生立ちのスライド上映、ご家族からのメッセージ、新成人からの一言とプログラムが進められました。



黒の上品なワンピースを着こなし落ち着いて参加されていた安田さん、スーツでびしっと決めシャンパンタワーに勢いよく元気にシャンパンを入れていた小倉さん、「お父さん、お母さんありがとうございます。」としっかりと感謝の言葉を伝えていた三島さん、普段は見られないスカート姿で笑顔の絶えなかった小越さん、眠いながらもたくさんの人に祝福され温かい表情だった白井さん、5人ともこの日はより一層輝いていました。そして、今回はもう一人主役がいました。昨年の7月に亡くなられた大槻俊行さん。彼はみんなと一緒に成人を迎えることはできなかったけれど、きっとどこかで一緒にシャンパンで乾杯をしていると思います。



「過去を振り返るのは人に感謝をするときだけ」と話す人がいました。これまでの人生を後悔したり、またはあの時は良かったな～と思い返したりすることが誰しもあると思います。どんな時も自分自身の周りには必ず誰かがいたはずで、20歳を機に過去を振り返り、家族、友人、先生とたくさんの人に支えられて生きてきたことに改めて気づく機会になるかもしれません。過去を振り返ることは、そんな支えてくれたたくさんの人に感謝をするときなのです。これまでの過去があったからこそ今がある。成人を迎えられた5人のみなさんが、これからも前を見てまわり道をしながらも進んでいけることを切に願っています。成人おめでとうございます。



(能勢)

協議会メモ

(旭区地域自立支援協議会の活動を紹介します)

「卒業」という節目にあたり、学齢期から青年期に向けて一人一人をどのように引き継いでいくか…できれば丁寧に！「個別支援会議」の必要性は理解できるが、現実に「時間がない」「進め方が分からない」「誰を呼ぶのか…」等々、釈然としないというのが旭区、いや横浜の現状ではないでしょうか。さて、そのような状況がうかがえる中、今年度の「卒後進路連絡会」(1月12日夕方)では、一人でも多くの関係者に「個別支援会議」の具体的なイメージを持っていただきたいと、「デモプレイ(寸劇みたいなもの)」を行いました。

個別支援会議の要点と流れ

～卒後進路バージョン～

【参加者】 区役所ケースワーカー・特別支援学校(養護学校)進路担当及び担任・進路先事業所のサービス管理責任者・母親

※ 参加者の顔ぶれは、卒業する本人の状況に応じて異なりますが、今回のデモプレイでは、スタンダードに近い(本人が入っていませんが…)顔ぶれで演じました。

【司会者】 青年期・成人期に向けて、行政的な立場で関わりを持つことになる、区役所ケースワーカーが行いました。

【記録】 個別支援会議が一人の方の人生に関わる大切な会議であり、また、開かれた公の会議であるためにも、記録担当者を明確にしました。(今回は板書形式)

【支援シート】 特別支援教育の中で位置付けられている「個別の支援計画」(支援シート)を、引継ぎのツールとして明確に位置付けたいと思います。

【内容】(大まかな流れ)

- ・ 本人・家族の事業所を選んだ理由・事業所に望むこと
- ・ 学校(教育)がしてきたことの引き継ぎ(何を大切にしてきたか…3年間で変わったことは…本人の将来生活とは…など、支援シートに載っていないことも含めて)
- ・ 法人・事業所の方針や考え方、及び事業所の具体的な活動について
- ・ 母親が大切にしていること
- ・ 学校、CWが気づいている生育歴や家庭状況の共有
(家族の前で話しにくいことは、会議を時間差で行うなどの対応が必要)
- ・ 会議内容の確認、今後のスケジュール確認

- ・ 事業所の考え方や方針などは、キチンと伝えておくことが大切。
「こんなはずじゃなかった」とトラブルの原因になる。
- ・ 支援シートについては学校によって書式が異なるが、将来に向けての期待を込めた内容にしてもらいたい。
- ・ 母親が、今までいかに自分の思いを聞いてもらっていないかと実感することがある。こういう機会を大切にしてほしい。

旭区では、卒業生全員を対象に
卒後の個別支援会議を目指したいと思います



関係者の連携する体制を
仕組みとしてきちんと位置付けることが必要!

ナルホド!

地域交流のWA



子育て相談

はじめまして。子育て支援者の熊谷です。
 昨年4月から「子育て相談」の会場が連になりました。あらたな親子の出会いもあり、子育て交流の輪が広がっています。育児の不安や悩みはさまざま…。相談したり、お母さん同士で話して情報交換したり。また、子どもと一緒に遊んだり、くつろいでいたり、自由に時間を過ごしています。どうぞお気軽におでかけください。

(問合わせ先：旭区子ども支援相談 954-6160)

～子育て支援者の相談日～

子育て支援者が育児相談をお受けしています。遊びに来るだけでもOKです。

毎週木曜日

10:00～12:00
(予約不要・入退室自由)

～地域交流室利用のご案内～

貸館利用のお申込みは、利用日の2ヶ月前の同日から、先着順で受け付けています。くわしくは電話または窓口にてお問い合わせください。

わたしのリアルポ 貝貝貝

(前号の又村大地さんからのリレーです)

こんにちは、私は工房2グループで生活サポーターをしている首藤健二といいます。工房2では、クッキー作りや牛乳パックのラミネートがしをする際のお手伝いをしたり、身体的な介助をしています。普段の仕事の中で、利用者さんが安心して過ごせるよう丁寧な介助・事故のない介助を心掛けています。

さて、皆さんは「ブラジリアン柔術」という格闘技を知っていますか？小柄な人でも身体が大きな相手に力ではなく、技術で勝つことができる寝技・組み技主体の格闘技です。仕事が終わった後や、休みの日などにブラジリアン柔術の練習に行っています。また、年に数回試合に出たりしています。

仕事と柔術、どちらも充実できるような毎日が送れるよう日々努力していきたいと思います。



<上になっている方が私です>

ボランティアさん募集

連の日中活動では、クッキーの製造と販売・牛乳パックを使ったはがきづくり・音楽活動・野菜販売・アルミ缶リサイクルなどの活動を主に行っています。ボランティアに興味をお持ちの方は、是非下記の担当までご連絡ください。

- 活動時間：月～土曜日の10時～16時の間で、ご都合の良い時間帯を調整いたしますので、お気軽にご連絡ください。
- 問合せ先：360-9778 担当：永井・妹尾

ホームページをリニューアルしました！

サポートセンター連のHPがリニューアルしました！活動の様子を、写真で分かりやすく紹介しています。連の日常を是非ご覧ください！

「訪問の家」で検索！

旭区地域自立支援協議会にもリンクしています。

[http:// www.houmon-no-ie.or.jp/](http://www.houmon-no-ie.or.jp/)

編集後記

ときどき野菜販売の店頭に座っていると、連にはいろいろな人がやってくるんだなあ…と実感します。連の福祉サービスを利用する方やご家族、つながり工房や野菜販売のお客さま、おもちゃ文庫に遊びにくる子ども達とお母さん、地域交流室をご利用の方々etc…。自然と顔なじみの人も多くなり、利用者さんやスタッフとの明るい会話も聴こえてきます。「連」が地域のいろいろな方の暮らしに溶け込んでいることがとても嬉しく感謝です。みなさんそれぞれに過ごす連での時間が、楽しいものであってくれたらいいなと思います。(小菅)